高天神城　静岡県掛川市上土方嶺向 3136

小笠山から南東にのびる尾根の先端、標高 132m の鶴翁山を中心に造られた山城。東の田園地帯から南側の遠州灘まで見渡すことができ、小笠山の北を通る東海道を牽制できる立地条件にある重要な城であったため戦国時代に徳川・武田の両雄が攻防戦を繰り広げた決戦場となった。「難攻不落の名城」と呼ばれ、「高天神を制するものは遠州を制する」といわれた要衝。高天神城の築城は、室町時代、今川氏が守護大名から戦国大名に成長する過程で築かれたとする説が有力であると言われています。今川氏の滅亡後、家康の兵糧攻めに遭い落城し家康の持ち城となり、小笠原長忠が引き継ぎ城主となりました。（説明版）

城址の入り口

搦め手門

三ケ月井戸

参道は急な登り

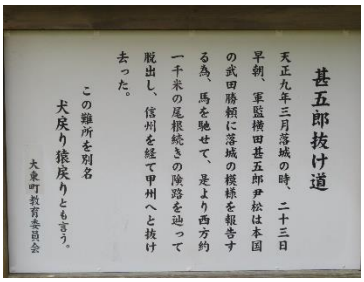
高天神社がある

西の丸の跡地

堀切

切割

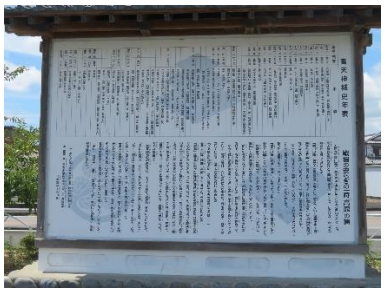
馬場平、馬の訓練が行われていた



抜け道だが急な道で立入りは危険

堀切　　空堀　　曲輪

勝頼に幽閉された大河内の石屈　　本丸跡地



三の丸　　土塁　　説明版